

石川三二郎 いしかわ さんじろう 評論家。明治九年五月二十三日埼玉縣生れ、昭和二十一年十一月二十八日歿（六十一歳）。舊姓五十嵐。筆名不盡、山紫樓、帆雨、帆雨樓主人、旭、旭山、旭山生、旭村生、石の三太夫、石川旭山、石川生、記者等。明治二十四年東京法政速成卒。『萬朝報』記者を経て、二十八年平民社入社、二十八年末下尚江等と雑誌『新紀元』創刊、四年筆禍下獄、大正五年渡歐、九年歸國、昭和四年マデイナミツク創刊、六年ユクリエ研究会主宰。『石川三二郎著作集』全八卷（昭和五年一、五年十四年青土社）刊。

著譯書、木下尚江著『創造』、『一流人語』附載、明治四十五年二月一日金尾文彌堂）、『哲人カタパンター』（明治四十五年二月二十五日東雲堂書店）、『非進化論と人生』（大正十四年九月十日白揚社）、

『市民生活の就て』（大正十五年二月、千日啓明會本部）『啓明パンフレット』（『共學パンフレット』（『無政府主義とサンヂカリスム』昭和二年十一月五日、4日京始生活の回復』（二年一月一日共學社）、『地底叢書』（一）『カタノの農民運動』（昭和二年十一月一日、

4・クロボトキン著『法律と強權』譯・四年十月二十五日地底社）、『社會主義運動史』（昭和四年七月二十五日日本評論社）『社會科叢書』（一）『自由人の放浪記』（昭和四年八月五日平凡社）、『共働運動叢書』（一）『新格』格他著『消費組合と無政府主義』小池英二共

譯・昭和五年一月二十五日、2日無政府主義講座』（二月一日共働運動研究會）、エリゼ・ルクリエ著『地人論・第一卷（人祖論）』（譯、昭和五年六月十日春秋社）、『東洋文化史台講（上）』（昭和十四年

十月二十五日青生社）、逸見登喜右衛門編『芥丸遺稿』（編、昭和十七年

七月二十七日逸見菊枝刊）、『時の自画像』（昭和十六年九月二十日
育生社弘道閣）、『東洋文化史の講義・第一巻』（昭和十七年七月二十

日育生社弘道閣）、エリゼ・ルクリュエ著『世界文化地史大系・一』（第

一卷）、『（譯、昭和十八年六月十五日有光社）、『組合叢書』（『と

會美學
しごり無政府主義』（昭和二十一年八月二十五日）、2『無政府主義研

究』（二十一年六月十五日）、3『進化論研究―附原如精神の回復』（二十

一月二十五日組合書店）、『辯證法的唯物史觀の批判』（瀧口徳治筆記、

昭和二十二年一月二十五日長野・ミノリテ社）、『闘うヒューマンスト

―近代日本の革命的人間像』（合著・學生書房編集部編、昭和二十二

年四月二十五日、再刊、二十四年十月二十一日學生書房）、『エリゼ

・ルクリュエ―思想と生涯』（昭和二十二年九月二十五日京都・國資料

學者）、『近代東洋文化史』（昭和二十二年十一月十日京都・大雅

堂）、カッペンター著『文明―その原因および政治』（譯、昭和二十

四年一月一日日本評論社『世界古典文庫』（『無政府主義の原理と

其實現』（昭和二十四年八月二十日共學社『共學パンフレット』13）、

『^{増補}改訂土曜新聞神話の新研究』（昭和二十五年十一月二十日ジープ社）、

『行動美學』（昭和二十七年八月五日

福岡・平民新聞社）、『わが非戦論史』

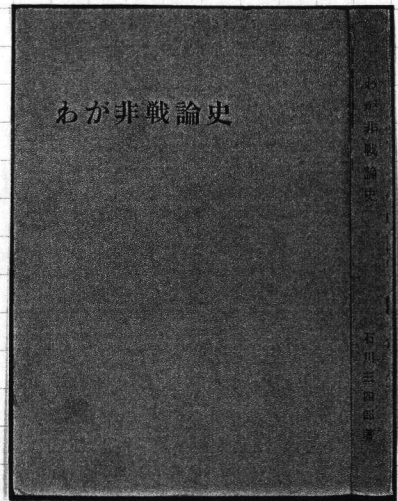
（昭和二十一年九月五日ソオル社）、

『石川三四郎書簡集』（唐沢柳二編、

昭和二十二年十一月五日ソオル社）、

『虚無の靈光』（秋山清解説、昭和四

十五年六月二十日二書房『二二漢書』（『辯證法的唯物史觀の批



わが非戦論史

評』(昭和四十七年八月十五日群馬・黒色戦線社)、エリゼ・ハナリ
 上著『進化と革命(復刻版付)(石川)』(四郎書簡集)』(譯、昭和四十七
 年八月十五日群馬・黒色戦線社)、『西洋社会主義運動史』(大沢)止
 道解説、昭和四十九年五月群馬・黒色戦線社)等。

文献、早稲田大学社会科学研究所編『社会主義者の書翰』(石川)『四郎
 ・福田英子宛書簡集と解説』』(昭和四十九年七月二十日早稲田大学
 出版部)等。